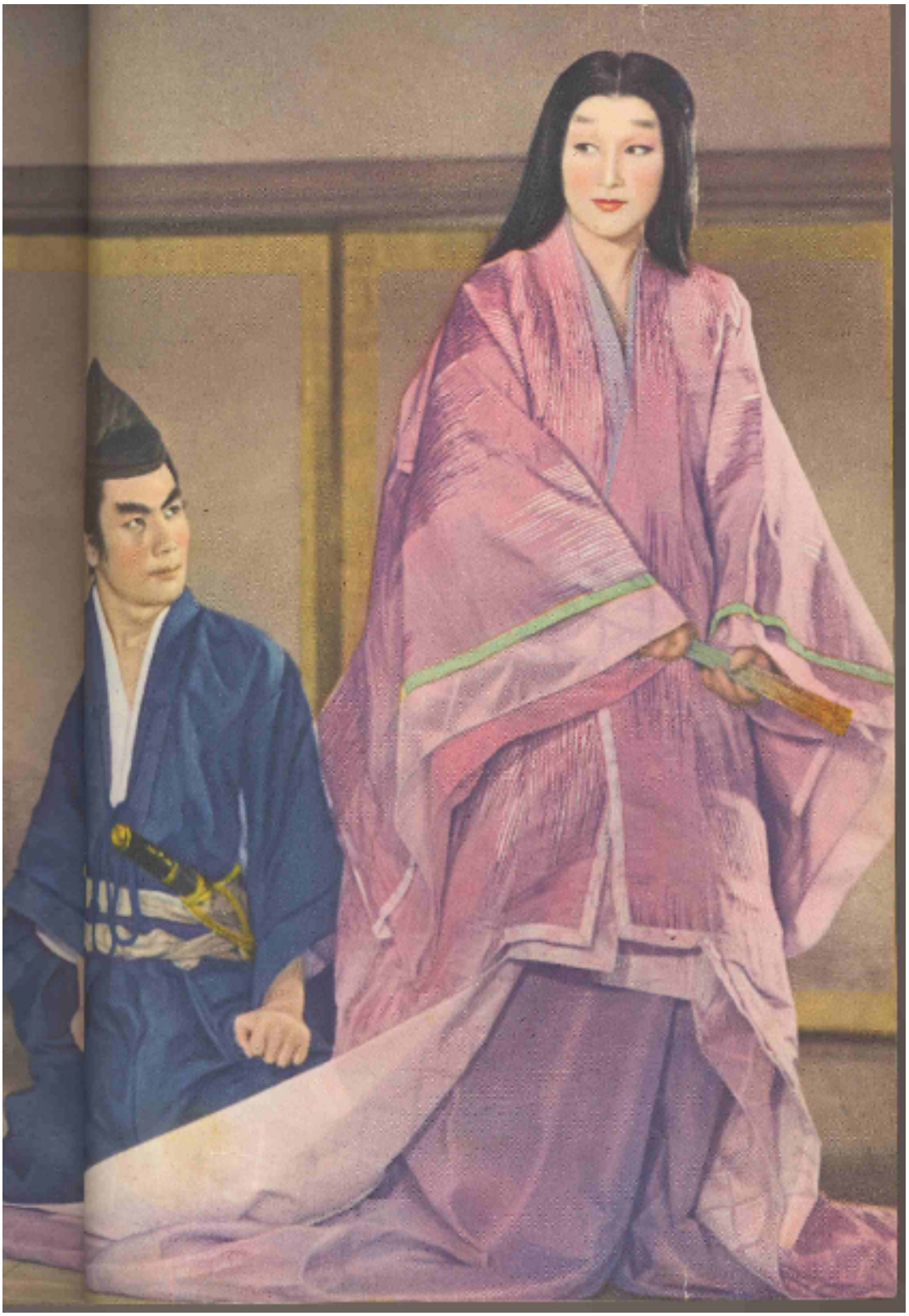
新・平家物語

近代映画
臨時増刊

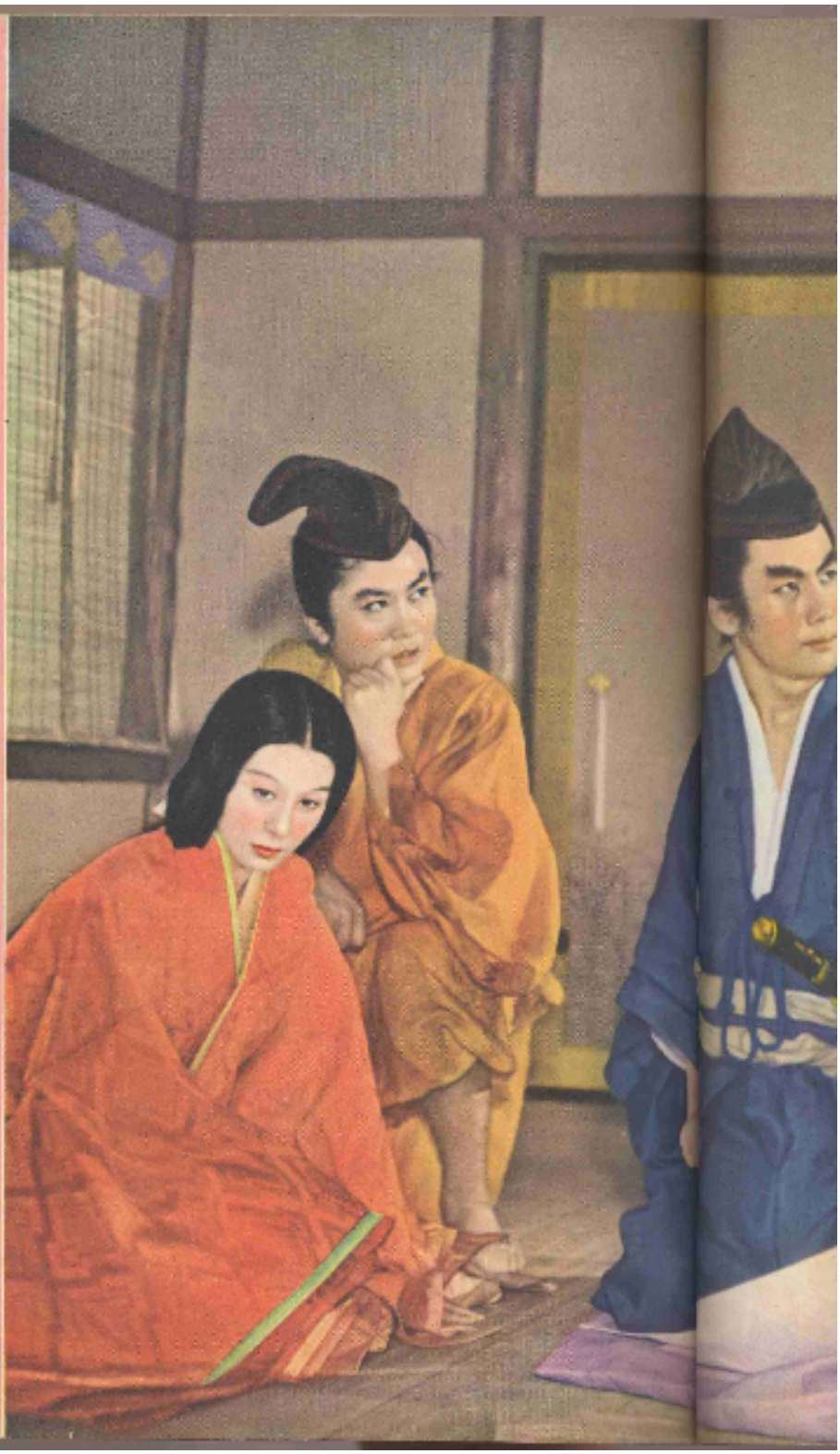
80エン

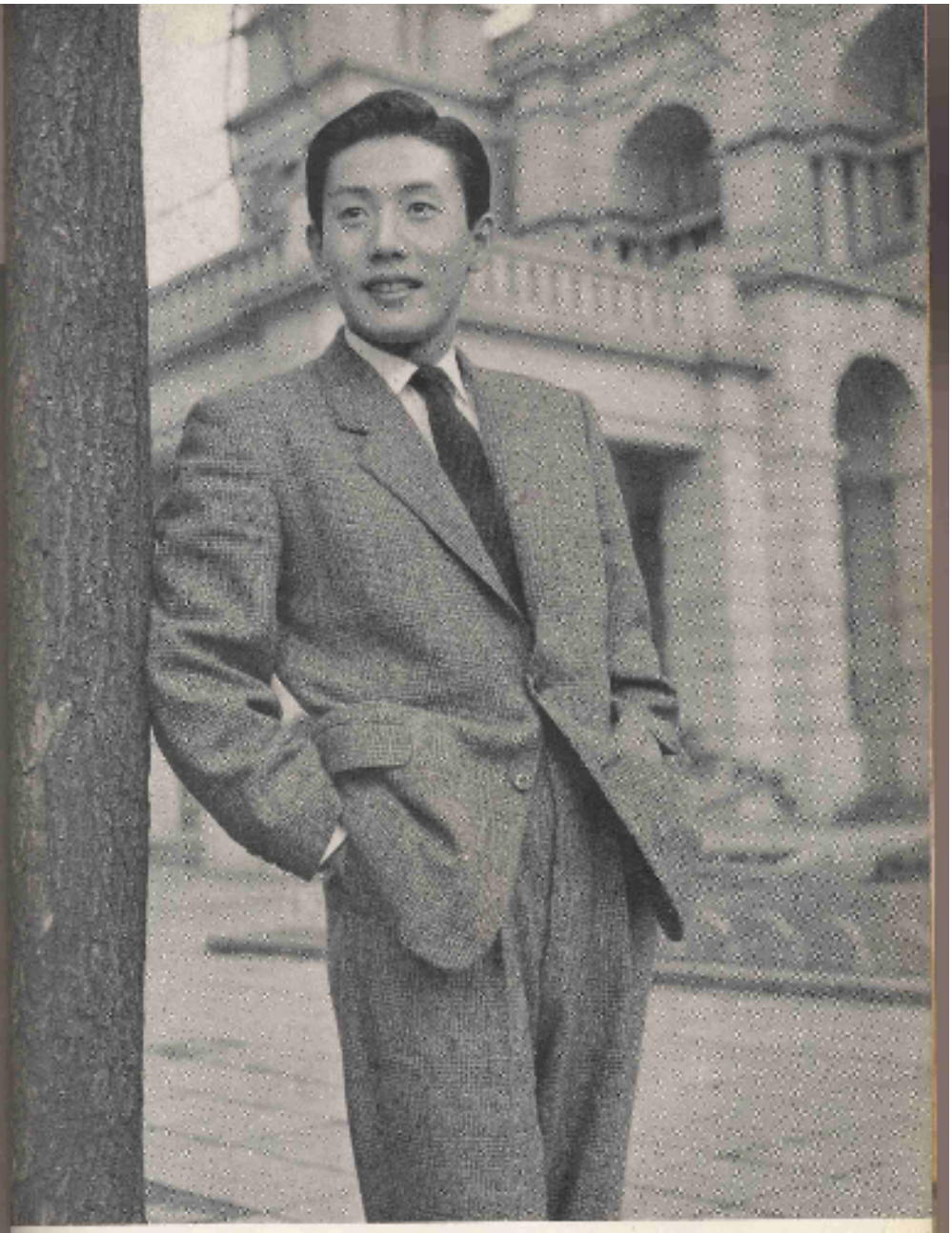


新・平家物語

父は天皇か、八坂の悪僧か、反逆児青年清盛の激しい情熱は苦悶する…！

清盛・市川雷蔵　時忠・林　成年
琴子・木暮実千代　時子・久我美子





市川雷蔵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]は今から約[illegible]年前、いわゆる世[illegible]という[illegible]時代、平安朝の[illegible]んとうたるべき[illegible]文化がようやく[illegible]ろうとする時、そ[illegible]に代る新興武士階級の興[illegible]が激しい時代、[illegible]入期のことに、今と伝えられる[illegible]の[illegible]時代を[illegible]ようとするもので、これに[illegible]源中[illegible]氏が[illegible]についての別の見方、不安[illegible]の中に生まれた正義の士[illegible]の[illegible]をテーマとした一大歴史小説の[illegible]化ッ！

[illegible]

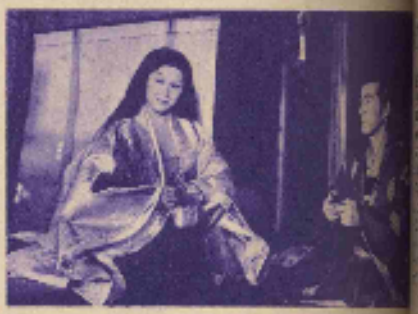
長瀬子（木暮実千代）は、青年清盛の父について、その過去を明らかにしなかった――ノ為に「清盛は大いに怒り「俺は白河上皇の子か、それとも無頼の徒の子か、と――？

「かし義父忠盛（大矢）への孝は忘れなかった――ノ

「源平盛衰物語」は、大陸が世界に誇る大映カラー超天然色長篇といって、その撮影はてんやわんやです。

スターは少しでも陽光をきらいようとして「黒のふ屏をあかのつた」

大谷ノ屋敷を出て、清盛さんはこの一日を無ほうす



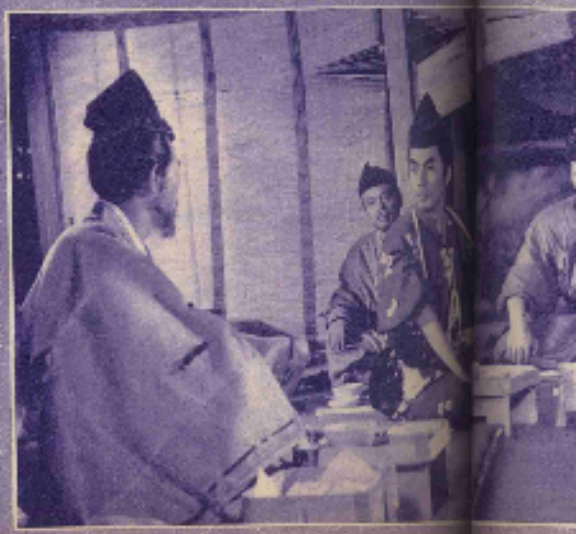
清盛は歴史の上で、悪人過と伝えられているが、しかし其に清盛が為政を求める事であつたと、百人一首に歌う清盛は、それ程に道理に多い。

[illegible]

そしたという話で「木曽見三代」は気位が高い女ですが

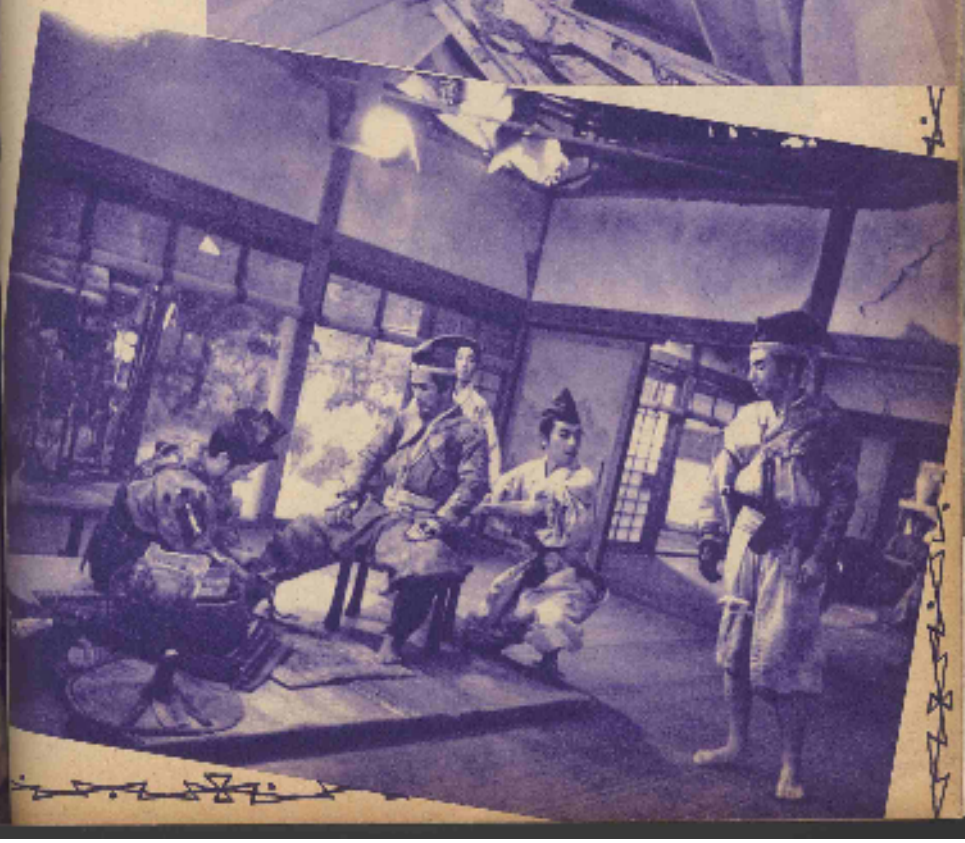
正義と勇気を求めて吉平清盛は今ヨリ武人の地位を得たる清盛

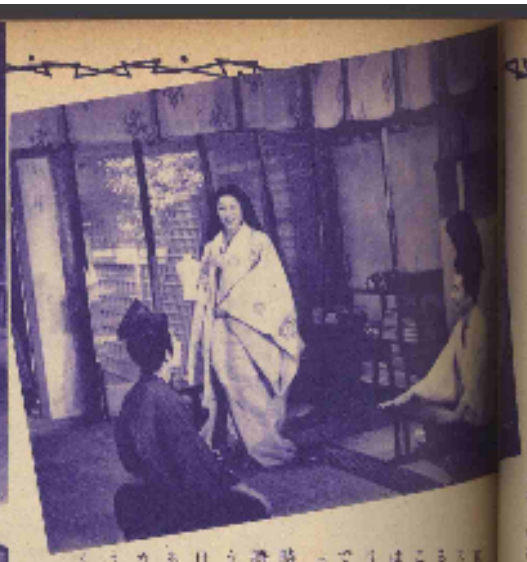
[illegible]



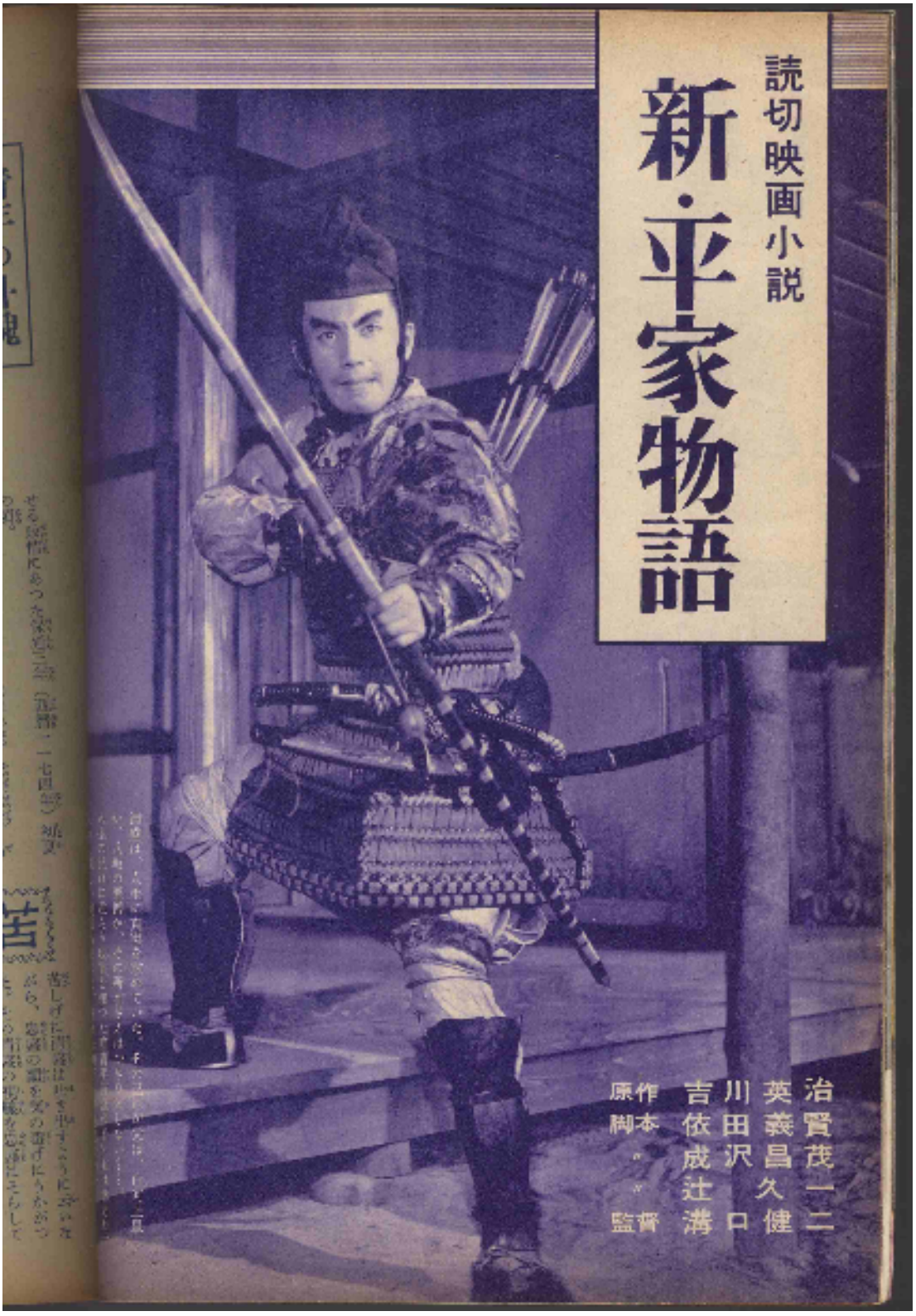
物語りが今から八百年前というので、この「新・平家物語」に出て来る登場人物の衣装からしてよく見ると明白いものがあります。右は木暮実千代さんの衛子ですが、白い襟元をのぞかせた衣装など、「現代的な感覚もあるでまありませんか」

宮のシーンは、宮のヨカラぬ生活がしのばれてなかなか興趣もある「新・平家物語」ですが、この映画の見所は、なんといっても、新進市川雷蔵が演ずる青年清盛の姿で、好漢雷蔵がどこまで清盛の生活ぶりを表現するかは注目されているといった所で十、若くて感覚のよい雷蔵にぴったりの役といかれています。





そではありませんか。
前のシーンは、昔の日本人の
す。若くて元気のよい青春にひ
ったりの役といわれています。


読切映画小説
新・平家物語
原作 吉川英治
脚本 依田義賢
〃 成沢昌茂
〃 辻久一
監督 溝口健二